

平成２８年度第１回事務事業評価における総括

部 局 名	監査事務局	記入責任者	小澤 伸一
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>監査事務局の第２次実施計画に位置付けられている１１事業については、行政改革の中で平成２７年度に休止とした工事監査事業以外は、全ての事業で指標の目標値を達成しており、成果が出ていることからＳ評価としています。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>休止した１事業以外の全ての事業で指標の目標値を達成できた要因としては、事業の年間スケジュールについて局内で協議し、調整を行う中で、計画性を持って進捗状況を管理してきた結果だと分析しています。</p> <p>政策指標としている定期監査の指摘件数は、目標値を達成できなかったものの、減少傾向にあり、特に２７年度は大幅に減少しています。引き続き、政策指標の目標値の達成に向けて、指摘件数を減らすことが課題となっています。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>事業全体は、順調に進捗しており、継続して進めていきます。その中で、政策指標としている定期監査の指摘件数をさらに減少させるため、引き続き、指摘事項の是正について、財務部局と連携を図るとともに、指摘のあった課かいについては、フォローアップを行い、財務事務等の基本的事項の認識誤り等によるミスを防止し、適正で効果的な事務執行を確保します。</p> <p>また、定期監査の提出書類等を見直して、監査の対象となった課かいの負担を軽減するとともに、予備監査の手法等の見直しを行い、違法性の指摘だけでなく、再発防止の指導に重点を置いた監査・検査を実施します。</p> <p>適正かつ効率的な監査・検査を実施するためには、監査事務局職員のスキルアップが不可欠です。人事異動に伴い実務経験が浅い職員が増加傾向にある中で、局内ミーティングでの情報共有やＯＪＴ等を通じ監査能力の向上を図るとともに、専門性を高めるため職場外研修への積極的な参加に取り組むなど、職員一人ひとりの資質の向上を図ります。</p>			